

【ニュースレター】 第25号 「がんばろう宮崎！宮崎応援コンサート」報告 2011.1.8

～子どもたちの豊かな感想をどうぞ～

2010年10月13日、口蹄疫で大きな被害を受けた宮崎県の子どもたちを励まそうと、私たちは応援コンサートを実施しました。これは演奏家の方たちの提案で実現したものです。

* 対象 ・川南町 唐瀬原中学校 ・宮崎市 佐土原中学校
・都農町 都農小学校 ・高鍋町 西・東小中学校

* 参加した演奏家の方々（プログラムより）

宮崎応援コンサート

加藤知子と仲間たち クラシックへの誘い



宮崎・都農町小学校

<以下、演奏家とのやりとり。子どもの感想です>

演奏家「クラシックは難しいな、と思う人は多いと思うけど、本とマンガとどちらが難しい？それはなぜかな？」

子ども「本は、場面を想像しないといけないから難しい」

演奏家「想像するのはクラシックも同じで、音やメロディから一人ひとりが

色々な事を自由に想像すればいいし、想像することが違っていてもかまわないし、違っているのが当たり前かな」

子ども「演奏の間、ずっと目をつぶって頭の中で想像していました。幸せに暮らしていたけど不幸になったストーリーや、草原で元気一杯踊っている子どものいるところが思い浮かびました。想像することって案外いいな、と思いました」

子ども「クラシックの曲はアニメと違って心に残り、イメージが浮かんできたりして楽しかったです」

先生「CDで聴く音とは違った音色や音楽家の方の“息遣い”を感じることができました」

子ども「牛や豚が、山羊が、いなくなってさびしかったけど、楽しくて元気が出る音楽を聴いて元気がでました」

子ども「ショパンの曲を聴いて自分勝手になったらいけないと思いました。世の中には自分の国から出て行かなければならない人や、食糧不足の国もあるのに、好き嫌いや自分が欲しいものをねだったりするのはよくないと思いました」

演奏家「みんなが宮崎の人のことを考えている事を忘れないで欲しい。君たちが目の前のことを大事にし、夢を実現するために毎日きちんと過ごすことが家族にとって一番大切なことです」

子ども「音楽が耳から入ってくるだけでなく、心に直接入ってくる気がしました。口蹄疫から復興に向けてがんばっている川南がさらに元気づくように…。その言葉が一つ一つの音にのって伝わってきました」



加藤知子
ヴァイオリン



店村真積
ヴァイオリン



原田禎夫
チェロ



川田知子
ヴァイオリン



加藤洋之
ピアノ

以上は子ども達の感想の一部ですが、読み進むうちに何度か涙が溢れ、心が震えました。私達の想像をはるかに超える大変な体験をした子ども達への派遣プログラムだったこともあり、通常の活動とは又違ったものになりました。

年の初めに、まず今回のご報告を第一にお届けたく思います。新年号は間もなくお届けいたしますのでお待ち下さい。